

京の和算家 業績しのぶ

江戸期「塵劫記」著した吉田光由 350年忌法要

江戸時代に日本独自の数学を発展させた和算家、吉田光由の350年遠忌法要が7日、菩提寺の二尊院（京都市右京区）で営まれた。奉納された位牌や真珠算盤を前に、子孫や関係者ら約40人が、江戸期のベストセラー「塵劫記」の著者をしのんだ。



吉田光由の墓前で手を合わせる子孫の省二さんら
(京都市右京区・二尊院)

右京・二尊院 子孫ら位牌やそろばん並べ

光由（1598〜1672年）は豪商・角倉了以が出た吉田家に生まれ、了以の子・素庵に和算を学んだ。27年に著した塵劫記は、そろばんによる計算法や数の単位などを解説し、算術書として人気を博したという。

法要では「吉田・角倉一族会」などが新たにつくった光由の戒名を記した位牌を安置した。参列した了以の子孫で一族会の吉田周平会長（78）＝奈良県三郷町＝らが次々と手を合わせ、墓前でも焼香した。吉田家19代目で光由子孫の省二さん（69）＝草津市＝は「先祖をしのぶ法要ができたのは、多くの有志の方々の協力があったこそだった。あらためて感謝したい」と述べた。法要は一族会や嵐山大悲閣を護る会、吉田光由悠久会・IKIの3者で催した。

(日山正紀)